

■宇多天皇 59代天皇、藤原氏との確執のなか、嵯峨天皇時代の国風文化を受け継ぎ、頂点となる王朝文化を準備した。

うだてんのう

..... 876= 仁明天皇の皇子時康親王(光孝天皇)の第7子。母は(藤原氏系でない)仲野親王の女班子女王。

..... 876= 9歳:

この間、侍従となり王侍従といわれる。

基経関白の実 884=17歳: 陽成天皇廃立で父が帝位につくと、兄弟姉妹とともに臣籍に降って源定省と称し、官人として勤める。

..... 885=18歳: この年、中国から渡来した黒猫を父から賜り、以後5年、ことのほか愛でたことを日記に書いているが、これは、家猫について記された日本史上初のものである。

宇多天皇即位 887=20歳: *父光孝天皇崩御直前、その意をうけた藤原朝臣基経の推挙によって親王に復し、皇太子となり、帝位を継ぐ。橘朝臣広相を登用し、一方、基経の功に報いるため万機を関白せしめる旨を詔し、また基経の推挙をかげで推進した基経の妹尚侍正三位藤原朝臣淑子を従一位に叙した。しかし、基経の辞表に対する重ねての優詔から、いわゆる阿衡の紛議が起り、これを契機に関白の制度が成立、これを不快として、

道真蔵人頭・ 891=24歳: 基経が没するや、東宮より内裏に入って親政をはじめ、菅原道真、藤原保則ら有能な官人を用いて地方政治の刷新に努める“寛平の治”。

..... 893=26歳: 第1皇子敦仁親王を皇太子に立てたが、その際、菅原道真のみに相談したといわれる。

遣唐使廃止・ 894=27歳:

故基経女の中宮温子が皇子を生まぬ以前にと、

宇多上皇・・ 897=30歳: 女御藤原胤子の生んだ皇太子敦仁親王の元服を機に譲位。このことも道真にのみ相談したといわれる。

譲位に当って新帝醍醐天皇のために「寛平御遺詔」を定め、故基経の子時平と並んで菅原道真を昇進させ、太上天皇の尊号をうけて、藤原氏の台頭を抑え隠然たる支配力を保持しながら、和歌の振興をはかるべく、大規模な歌合を催すなどして「古今和歌集」勅撰への気運を高めた。幼少より仏教の信仰厚く、

道真右大臣・ 899=32歳: 東寺長者益信を戒師に出家して空理(のち金剛覺)と号し、初の法皇となって修行にはげむ間に、

菅原道真左遷 901=34歳: *道真が大宰府に左遷され、これを阻止しようとして内裏に馳せ参じたが、左右諸陣が警固して醍醐に会うことができず、終日陣の庭上に御したが、ついに目的を果たせず、権力を失った。

道真没・・ 903=36歳:

..... 904=37歳: 仁和寺に御室を造営し、またこの年、延暦寺に行幸して千光院に御室を造らせた。

唐滅亡・・ 907=40歳: 紀伊の熊野に行幸。信仰のための行幸は枚挙に遑がない。

藤原時平死・ 909=42歳: *時平が死に、かねて法皇に寵愛されていた弟忠平が政治をとると、法皇、天皇、忠平の融和を軸として、のちに“延喜の治”とよばれる政治的安定がつづき、

自ら学問・文華を好み、箏・和琴・琵琶などにも巧みであったことから、

..... 912=45歳:

..... 913=46歳: 特に有名な亭子院歌合せをはじめ、

しばしば詩宴を行ない、たびたび歌合せを行なう。

..... 921=54歳:

より大きな歴史的意義はその文化的活動にあり、宮廷の年中行事を整備し、内裏の運営に当たる蔵人所を充実させた。密教においても、仁和寺内に御室を設けて住居とし、真言宗広沢流の祖となった。

渤海滅亡・・ 926=59歳: 60の宝算の祝賀が行なわれたが、

忠平摂政復活 930=63歳: *醍醐天皇に先立たれ、

宇多上皇没・ 931=64歳: 没した。